

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

新年の共同社説と2008年の北朝鮮経済

2009年1月1日、朝鮮労働党機関紙『労働新聞』、朝鮮人民軍機関紙『朝鮮人民軍』、金日成社会主義青年同盟機関紙『青年前衛』は恒例の共同社説を掲載した。北朝鮮では、学校と職場、社会教育を通じて、その年の国家の基本路線を提示する重要な文書という位置づけでこの共同社説を全国民に対して普及している。

今年の題名は「総進軍のラッパの音高らかに鳴り響かせ今年を新たな革命的高揚の年として輝かそう」である。

今年の共同社説では、昨年を「60年にわたるわが共和国の誇らしい年代記の輝かしい勝利の一章を記した歴史的転換の年であった」と評価している。これは、金日成主席の生誕100周年にあたる2012年に「強盛大国の大門を開く」ための「総攻撃戦」が本格的に始まったのが昨年であるとの認識がなされているためである。

続いて共同社説は今年が「党の呼びかけにこたえて全人民的な総攻勢によって強盛大国建設の各部門で歴史的な飛躍を遂げるべき新たな革命的大高揚の年である」と規定している。「革命的大高揚の偉大な伝統を継承して先軍朝鮮に輝かしい全盛期を開いていこう！」というスローガンのもと、1950年代の千里馬運動時期に言及して経済建設に専心するべきであるとの認識を示し、理屈ではなく結果を出すことを求める内容になっている。同時に社会主義原則、集団主義原則を外れた行動を厳に戒めている。

今年の共同社説に掲載された政策を記載された順番で見ると、思想分野、闘争方式、経済分野、文芸・教育・スポーツ、軍事力を基礎とした国力強化、南北共同宣言の誠実な履行と「わが民族同士」原則の貫徹となる。

以下、今年の経済政策のポイントを抜粋して紹介する。

経済回復から経済発展への移行

今年の共同社説で注目されるのは、「現段階の経済建設においてわれわれに提起されている重要な課題は、社会主義的計画経済の優位性に基つき、生産の正常化と現代化を密接に結合させて強力に推進することによって、人民経済の各部門で最高の生産水準を決定的に突破することである」と過去の最高水準（多くが1980年代後半）を突破することを目標としていることである。1998年以降、北朝鮮経済は緩やかな回復を見せているが、このような大胆な目標設定は初めてである。内部的には最低限の設備更新の終了、国際的には米国によるテロ支援国家指定解除などを受けて、経済を成長軌道へと乗せられる見込みが出てきたのだろう。

金属工業が最重点分野に

今年は金属工業（製鉄）を最重要視する方針へと移行している。「金属工場に電力と燃料、原料を集中的に供給して更新済みの近代的な生産工程が大きな効力を発揮できるようにすべきである」との表現から、金属工業に対する設備更新がある程度進んでいることが推察される。電力、石炭、鉄道運輸部門はその次に言及され、電力では火力発電所のフル稼働と建設中の水力発電所の操業の前倒し、石炭では生産拡大、鉄道運輸では設備の更新と輸送効率のアップによる輸送力のアップが強調されている。

鉱業の育成に関心

一昨年、「経済発展の遠い将来をにらみつつ」有望部門として登場した鉱業は、昨年は「国の資源を合理的に開発利用」という表現で重要分野として認識された。今年は「有望な鉱山を実利主義の立場で開発」とより経済性を重視した表現となっている。

農業、軽工業では人民生活の向上を重視

人民生活の向上に関しては、まず食糧問題の解決が提起されている。このところの食料価格高騰などを意識してか、「何としても自力で食の問題を解決するという確たる覚悟を持って、今年度の穀物生産目標の達成に総力を集中すべき」としている。軽工業部門に関しては、内部潜在力の動員を通じた一般消費財の生産増加が謳われている。

経済管理における社会主義原則の堅持と対象の選択と集中

経済建設に対する国家の中央集権的・統一的指導の強化と経済計画策定方法の改善を強調するとともに、重要対象に「力量と資源を集中する原則」に立ち、規律を守りつつ実利の徹底と内部予備の動員、節約運動の展開などが言及されている。同時に、「経済幹部の実務レベルを一段と高め、経済管理を情報化、科学化していくべき」と思想的引き締めとともに、理屈ではなく結果を出すことを求める内容となっている。

科学技術の重視と技術水準を高める動きの継続

科学技術を経済発展の基礎とするため、「国家的に科学技術陣を集中して経済の自立性を強化し、近代化の推進で提起される問題を一つ一つ確実に解決していくべきである」と科学者を生産現場に近づける産学協同的な発想が指摘されている。これまで理論に偏りがちであった科学者に、具体的な問題の解決を通じた経済建設への参加という、新たな課題を提示したのとして注目される。

（ERINA調査研究部研究主任 三村光弘）